

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本大腸肛門病学会

理事長 宮島伸宜

- l. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

- a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ① 大腸肛門領域における機能的疾患の定義、診断および治療方法の確立

日本大腸肛門病学会では機能的疾患に対する研究が非常に重要であると位置づけている。本学会には各科横断的に多くの科が参加しており、一面からだけではない議論を行う事ができるのが特徴である。各科が一堂に会して得られたコンセンサスを内外に向けて発信することは今後の大腸肛門病の研究に携わる多くの研究者の指針となるものと考えられる。

- ② 大腸肛門領域における良・悪性疾患に対する各科横断的な取り組み

日本大腸肛門病学会は内科、外科、肛門科、病理科、放射線科が参画する学会である。多くの良・悪性疾患に対して集学的な診断・治療方法を研究するためのプラットフォームが既に存在することは学術的に非常に意義深いものである。癌だけでなく、炎症性腸疾患においても多くの科が参画して研究にあたることで重要な知見を得ることができる。

- b. 当該領域における国際的な役割

これまでも欧米諸国、アジア諸国の大腸肛門病学の学会との相互訪問、相互学会発表や病院訪問などの取り組みを行ってきた。日本大腸肛門病学会の英文機関誌である Journal of the Anus, Rectum and Colon (JARC) が創刊5年目を迎え、PMCにも掲載されたことで海外からの引用も増加している。また、海外からの投稿もみられるようになった。JARCの編集者と海外学会の機関誌の編集者との交流を行い、機関誌の質の向上を行っている。本邦における大腸肛門病学に関わる優れた研究や知見を内外に広く周知するために本学会と英文機関誌である JARC は大きな役割を果たしている。さらに、海外において大腸肛門病学に優れた業績を残し、本学会との連携を密にするために尽力した医師に対して国際名誉会員の称号を授与しその業績を讃えるシステムを構築した。

- c. 活動からもたらされる社会的な意義

すでに高齢者社会を迎えている現在において肛門疾患や大腸機能的疾患の正確な診断と治療を行うことは重要な意義がある。また、単科ではなく領域横断的な治療を行えることが日本大腸肛門病学会の特性であると考えている。今後さらに、直腸肛門疾患、排

便機能障害は増加するものと考えられ、多くの人々の生活の質を向上させることが本学会の使命である。

d. 学会運営上留意している点

本学会は外科、内科、肛門科、病理科、放射線科が協力して同じテーマを掘り下げて研究している学会である。医師はもちろんのこと、医療スタッフに対する実践的な手技の指導や教育に関してもその役割を担っている。また、新規薬剤の適正使用指針などの作成においては多くの科にまたがることであるため留意を行っている。多くの科、多くの背景を持つ会員の要望に応えていくような運営を心がけている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

本学会は各科横断的な学会であることから大腸癌の集学的な診断と治療、早期癌の内視鏡的診断と治療、炎症性腸疾患を含めた大腸良性疾患の診断と治療、機能性疾患である便失禁、肛門疾患、便秘症などに対する診断と治療などに対しての研究と活動を行っている。日本医学会の関連した分科会と協力してこれらの活動に取り組んでいる。学術集会においても、術後の機能障害に対する診断と治療、早期癌に対する治療方法の選択、高齢者の疾患に対する領域横断的な治療法の選択などについてのテーマがとりあげられ、多くの研究発表がなされている。今後は関連した領域との連携を一層緊密なものとして新しい知見を得ることができるような体制を構築することが期待される。